

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第3区分

【発行日】平成28年5月19日(2016.5.19)

【公開番号】特開2014-198359(P2014-198359A)

【公開日】平成26年10月23日(2014.10.23)

【年通号数】公開・登録公報2014-058

【出願番号】特願2013-74333(P2013-74333)

【国際特許分類】

B 24 B 9/14 (2006.01)

【F I】

B 24 B 9/14 A

【手続補正書】

【提出日】平成28年3月25日(2016.3.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

眼鏡レンズを保持するためのレンズチャックユニットと、前記レンズチャックユニットによって保持された前記眼鏡レンズを加工するための加工工具を有する加工ユニットと、前記眼鏡レンズと前記加工工具との相対距離を調整する調整手段と、を備え、前記加工ユニットを動作させると共に、加工データに基づいて前記調整手段を動作させることにより前記眼鏡レンズを加工する眼鏡レンズ加工装置であって、

前記レンズチャックユニットによって前記眼鏡レンズが保持された状態において、前記眼鏡レンズが適正に加工されたか否かを検査するための検査ユニットを備えることを特徴とする眼鏡レンズ加工装置。

【請求項2】

前記検査ユニットからの検査結果に基づいて前記加工ユニットに不具合があるか否かを判定する判定手段と、をさらに備えることを特徴とする請求項1の眼鏡レンズ加工装置。

【請求項3】

前記眼鏡レンズ加工装置は、前記加工ユニットを動作させることにより前記眼鏡レンズの周縁を加工可能な眼鏡レンズ加工装置であって、

前記検査ユニットは、前記眼鏡レンズの周縁を加工する際に用いる加工軌跡よりも、レンズチャックユニットのチャック軸から離れた領域において、前記眼鏡レンズの未加工部分の有無を検査し、

前記判定手段は、前記未加工部分が有るという検査結果が得られた場合、前記加工ユニットに不具合があると判定する請求項1～2のいずれかの眼鏡レンズ加工装置。

【請求項4】

眼鏡レンズ加工装置は、玉型データに対応した眼鏡レンズの前面位置情報及び後面位置情報の少なくとも一方を測定する位置情報測定手段を有し、

前記検査ユニットは、前記位置情報測定手段を兼用し、眼鏡レンズの前記前面位置又は前記後面位置の少なくとも一方に関する測定結果に基づいて、前記眼鏡レンズが適正に加工されたか否かを検査することを特徴とする請求項1～3のいずれかの眼鏡レンズ加工装置。

。

【請求項5】

請求項1～3のいずれかの眼鏡レンズ加工装置は、眼鏡の玉型データを取得するための

玉型取得手段と、前記レンズチャックユニットによって保持された前記眼鏡レンズの径である動径長を測定する動径長測定手段と、をさらに備え、

前記検査ユニットは、前記動径長測定手段を兼用し、前記動径長測定手段によって測定された加工後の前記眼鏡レンズ動径長が、前記玉型データに基づいて予測される動径長と異なるときに、前記眼鏡レンズが適正に加工されていないと判定する眼鏡レンズ加工装置。

—